



平成4年10月、創立80周年の記念旅行で北海道へ。(昭和新山)

社員福祉の向上を図る

～末宗のお陰で年金が～

庄太郎が社長に就任した63年は、その後訪れるバブル景気が助走に入った段階で、建設業界も活況を呈し、末宗組の売上げも再び上昇に転じていた。同時にこの頃はまた、建設業界の転換期でもあった。

63年5月に建設業法が制定され、指定建設業では1級の国家資格者を配置しなければならなくなった。また平成元年には、労働力確保対策として福利厚生面の充実を目的に「大分県建設業厚生年金基金」が設立されるなど、建設業界は古い体質からの脱皮を図ろうとしていたのである。

庄太郎は、こうした動きに素早く対応する。60歳定年制を導入し、それまで明確でなかった休みも4週5休を定着させた。さらに、正社員ではない現場のおばちゃんたちも就業年数の長い人は厚生年金に加入させるなど、働く環境を整えた。現役を引退したおばちゃんたちは今「末宗のお陰で年金がもらえる」と感謝している。

また社員の慰労と親睦のために毎年社員旅行に出かけるようになるのもこの時期からだ。新体制になってからも、工場の建築、学校や公民館、庁舎などの増築、改築、グラウンド整備や道路改修、舗装、河川改修、海岸の改良など、変わらず各種工事を次々と行っていく。社員福祉の向上は社員のモチベーションを上げ、作業効率も上げていた。そして平成4年、末宗

平成～現在

平成～現在までの末宗組・末宗家の主な出来事

平成元年	末宗寿洋子取締役就任 エンジニアオフィス新築
2年	末宗寿市入社
4年	末宗組創設80周年 重機倉庫新築
5年	末宗寿洋子死去
10年	末宗寿市常務就任
11年	末宗秀雄、大分県議会へ
13年	末宗信市入社
19年	末宗宏三入社
24年	末宗組創立100周年 本社屋新築

主な工事（年月は着工時期）

平成 11 年（失業者 300 万人 / 情報公開法成立）

- 3月 宇佐地区第 42 区情報施設設置
岩崎橋梁下部
- 6月 下矢部工区舗装
- 7月 三和酒類 造成
- 8月 和気佐野線舗装補修（宇佐市増木）
- 9月 岩崎舗装
- 10月 九州郵政局中津宿舍新築
- 11月 JA 大分宇佐支店（ふれあい市場舎）新築
- 12月 農公湖西園路

平成 12 年（九州・沖縄サミット開催）

- 3月 金丸・西屋敷地区付加車線設置
宇佐市宮別府印地立替
宇佐簡易保険総合レクセンター大広間増築
- 7月 農業文化公園湖西園路北工区
- 10月 農業文化公園遊具制作設置
河川改修（奇瀬川・宇佐市南鶴田）
宇佐市四日市・駅川浄化センター建設
- 12月 ふるさと農道宇佐東部松崎工区舗装

平成 13 年（小泉純一郎首相誕生 / 米国で同時多発テロ事件 / 狂牛病発生）

- 3月 和気佐野線舗装新設（宇佐市南宇佐）
金丸・西屋敷地区付加車線設置
- 6月 宇佐養護学校特別教室棟大規模改造
大分大学附属中学校校舎改修その他
- 8月 森高校管理特別教室棟大規模改造
第 2 立石工区路床
- 9月 中津高田線舗装補修（宇佐市長洲）
安心院中学校校舎改築主体工事
口戸橋梁下部工
- 11月 ふるさと農道宇佐東部 2 期北宇佐工区路床工事

3時半から4時起きで、多いときには13人分のお弁当を作ったこともあった。もちろん家のこともすべて嫁である寿津子の仕事で、子どもができてからはそこに育児が加わる。また十郎や庄市の選挙では、当時は選挙カーが遊説から帰ると運動員や支持者にお酒や食事をふるまうのが一般的で、それもまた寿津子の仕事になった。

昭和35年に入社して40年以上勤め、時に本家で寿津子の手伝いもしたという都留ナミ子は入社当初、手に靴墨を付けて働いている寿津子を見て「女中さんかと思った」と言う。庄市の靴はいつも磨きあげられていた。

根っからの明治人であった舅と姑に尽くし、夫を支える毎日。「奥さんは両親、社長をみんな見送ってからやっとなつた自由になったと思います。それから会社の旅行にも行くようになった。一緒に行きましたけど、喜んでましたよ」と都留。

しかし寿津子が余生を楽しめたのは、わずか5年だった。平成5年11月29日、病院に検査に行つてそのまま帰らぬ人となった。71歳だった。葬儀は自宅で行われ、庭から会社の敷地、10号線まで弔問客で溢れた。



社員旅行を楽しむ4兄弟の母、寿津子。
（左から、植田ミドリ、寿津子、金丸友恵、北村悦子、都留ナミ子）

母・寿津子の死 ↳ 支え続けた一生

兄弟4人で、亡き父の後を受け継ぎ、会社を盛り立てていく。それは母である寿津子にとっては喜びであると同時に、安堵を感じていたに違いない。夫の庄市は身内の問題では苦労をした人で、寿津子はいちばん近くでその苦労を見て知っていた。

反対に息子たちも、これから母に楽をしてもらおうと考えていた。仕事にはいっさい口を出さなかったが、裏で庄市や末宗家を支えていたのは寿津子だったと誰もが思っていたからだ。

住み込みの作業員や運転手の衣服、布団の洗濯、食糧難の時代のお弁当づくり。食材を苦心し、午前



創立 80 周年記念の一環として増築された
エンジン2号オフィス

組創立80周年の年、年間完工高は15億円を超え、過去最高となった。

80周年記念の一環として、平成元年にエンジン2号オフィス新築、4年には重機倉庫を建設した。また、末宗組の歴史を顧みることで、過去の様々な状況下を企業としてどのように生きてきたかを知ると同時に、今後の指針にすべく、記念誌の編纂（平成6年刊行）も行った。このとき編集責任者として資料集めなどに奔走した塚本は、その大役を終え、平成9年に退職する。

主な工事（年月は着工時期）

平成 14 年（第 1 回日朝会談 / ワールドカップ日韓大会）

- 3 月 湯布院道の駅駐車場整備
四日市コミュニティセンター建設
- 8 月 上ノ原 2 工区舗装
- 9 月 ふるさと農道宇佐東部 2 期国道取付
- 12 月 上田四日市線 1 工区道路舗装

平成 15 年（新型肺炎世界的流行 / 個人情報保護法成立）

- 1 月 森高校管理特別教室棟及び普通特別教室棟大規模改造
- 4 月 江熊地区第 3 工区歩道設置
国道 213 号舗装補修（宇佐市西木）
- 7 月 玉名横島海岸保全事業堤防根固（熊本県末広・菊池工区）
- 11 月 きつき生涯学習館改修

平成 16 年（年金未納問題 / 九州新幹線鹿児島中央駅～新八代駅開業）

- 1 月 大山ダム左岸残土処理場
- 3 月 中津港舗装新設（中津市田尻）
医療法人起愛会宇佐病院増築
出光地区歩道設置
- 6 月 山国中学校水泳プール整備
- 7 月 宇佐市立北部中学校校舎改築
- 8 月 三和酒類第 2 エコフーズ棟建築
- 12 月 佐伯公務員宿舍新設建築

平成 17 年（JR 福知山線脱線事故 107 人死亡 / 郵政民営化法案成立）

- 3 月 大分 387 号 温見野地区改良外
- 7 月 諫早湾干拓事業干拓地区基幹施設等（長崎県）
大江住宅外壁改修その他（熊本県）
- 9 月 小松住宅 1～6 号棟外壁改修その他（宮崎県）
- 12 月 宇佐市立宇佐中学校台風災害復旧

平成 18 年（日銀ゼロ金利解除）

- 3 月 広野住宅 2 期新築
石田地区舗装改修
- 6 月 天津簡水排水管敷設
- 8 月 大分 57 号 中道 IC 地区第 2 工区改良
大分大学工学部機械・電気工学研究棟等改修その他
- 12 月 深見ダム漏水対策

時代に即した企業として
建設は街づくりの一環に

平成 4 年にバブルが崩壊し、それから長い不況の時代へと突入する。県内でも企業倒産が増え、民間設備投資が減少、受注競争も激しくなった。しかし末宗組は、大きく落ち込むこともなく、むしろ建築、土木、舗装各部門のバランスのとれた企業へと進化していった。それは誠実に地道に仕事に取り組み、たゆまぬ企業努力を続けた成果と言える。また平成 13 年には県北でもいち早く ISO 9001...2000（国際標準化機構における品質管理システム）を取得。社員の意識もより高くなっていった。建設業には各種の資格が必要とされる。それぞれ 1 級、2 級の建築士、建築施工管理技



熊本県・玉名横島海岸保全事業堤防根固。(平成 15 年)

主な工事（年月は着工時期）

平成 19 年（衆議院で民主党が第 1 党に / 新潟中越沖地震）

- 7 月 大分大学（教福・経）校舎改修その他
舟川地区泊山
- 9 月 雇用促進住宅戸次宿舍外 1 件 外壁他改修
平成の森公園野球場メインスタンド建築
中津維持管内交通安全施設設置
大分 10 号第 1 加来橋外 3 橋下部工

平成 20 年（後期高齢者医療制度スタート）

- 1 月 広野住宅 3 期新築
- 2 月 大分 10 号 藤原地区改築
- 6 月 日産プリンス大分販売宇佐店増築
長洲漁港広域漁港整備
- 8 月 大分大学（巨野原）校舎改修その他
- 9 月 伊呂波橋外 1 橋耐震補強
道路改修（犬丸～伊藤田）
- 10 月 中判田地区舗装修繕

平成 21 年（衆議院総選挙で民主党大勝 /

裁判員裁判発足 / 新型インフルエンザ大流行）

- 3 月 中津南高校管理棟改築
- 6 月 大分川ダム材料運搬道路遮断地区
- 7 月 三川橋外 1 橋耐震補強
森山大橋外 1 橋耐震補強
竹田地区防塵橋設置
港湾改修（呉崎）
- 10 月 高田高校教室棟仮設校舎設置・解体
広域漁場整備（宇佐漁場、宇佐市沖）
農環西国東 草地区、来興工区舗装

平成 22 年（口蹄疫拡大 / 小惑星探査機はやぶさ帰還）

- 2 月 宇佐高校普通教室棟改築
- 3 月 大分川ダム材料運搬道路尾サキ地区
別府港海岸（餅ヶ浜地区）突堤長寿命化実証試験
国道 213 号岩崎・橋梁補修
- 5 月 大山ダム管理所新築
- 8 月 大分大学（教養）総合研究棟（講義実験室棟）改修
国東浄化センター建設
国道 212 号日田市花月・交通安全工事
- 10 月 広域漁場整備（豊前海西部漁場、中津市沖）
中津南高校教室棟改築 B 工区
- 11 月 大分 57 号 大野竹田道路宮迫地区改良外
- 12 月 日田国道維持管内 横釣橋外 2 橋高欄更新

平成 24 年 8 月、末宗組は創業 100 周年を迎えた。記念として新築された本社の屋上にはソーラーパネルが設置され、光源はすべて LED に変えられた。また、末宗組の関連会社で、十と秀雄が代表取締役を務める新会社、(株)クリエーションエネルギーはメガソーラーを建設中だ。（平成 24 年 12 月操業開始予定）為十は、前年 3 月の震災の後で「次世代のために何ができるか」を考え「一助にでもなれば」とメガソーラー建設を決断した。敷地面積 2 万 1 682 ㎡、ソーラーパネル 6240 枚を並べ、年間 164 万 7000 kWh、一般家庭約 500 世帯分を発電する。いずれもそこには環境への配慮と、未来へ向けての

そして、また挑戦が始まる

～これからも地域のために～

士、土木施工管理技士、建設機械施工技士、舗装施工管理技術者、建設業経理事務士。他にもコンクリート診断士やコンクリート技士など、末宗組ではほとんどの社員がいずれかの資格を持ち、忙しい仕事の合間、より上の資格を目指して勉強を怠らない。

平成 15 年頃になると地元での民間・公共工事ともに減少傾向になり、大分市や日田市、佐伯市などの他市や、他県での受注が増加する。代表的なものは、平成 15 年の玉名横島海岸保全事業、平成 16 年の大山ダム左岸残土処理場、17・19 年の諫早湾干拓事業、18～22 年まで毎年のように行われた大分大学関係の工事、21・22 年の大分川ダム関連工事、22 年の大山ダム管理事務所新築工事、ほかに宮崎県や熊本県での公営住宅改修工事など、活動範囲が広がった。

また、この頃から景観や環境に対する社会的意識が高まり、末宗組の建築も町や景観との調和を反映したものになる。平成 24 年 7 月に着工した宇佐神宮の百段階段にモノレールを敷設するための改修工事（バリアフリー工事）も、境内の木や建築物を傷つけず、美観を損なわないよう細心の配慮をしながら工事が進められている。

河川や道路、護岸工事も、本来の機能だけでなく、自然との調和や共生といった付加価値が必要になった。建築も土木も独立した分野ではなく、町づくりの一環になったわけ、建設業者の地域に対する責任はますます大きくなっていく。

昭和 15 年に末宗組が築造した宇佐神宮の百段階段を、創立 100 年の年に再び改修する。



主な工事（年月は着工時期）

平成 23 年（東日本大震災／デジタル放送へ完全移行）

- 8月 東九州波当津川第4工区付替
佐伯維持管内道路附属物設置
- 9月 小稲瀬線道路改良
- 10月 和氣地区歩道整備
北馬城小学校校舎改築建築主体
- 12月 安岐海岸環境整備

平成 24 年（東京スカイツリー竣工／

NASAの火星探査機キュリオシティ火星着陸）

- 1月 東上田城井線橋梁下部工（A 1）
- 2月 三栄商会宇佐給油所新築
- 7月 宇佐神宮百段階段改築並びにバリアフリー整備
院内支所庁舎増改築
- 9月 水分トンネル補修
玖珠町総合運動公園建設事業・野球場建築

なれば、否応なく企業の体質は変わっていくに違いない。
時代はどんどん変わっていく。好・不況の波は繰り返して押し寄せてくる。今後、社会や人々の求めるものはますます多様化し、そのニーズに応えるためには、これまでとは異なる企業努力が必要とされるだろう。それでも「目先の利益よりも、地域のために」という、代々受け継がれてきた末宗組の基本理念は変わらない。
温故知新——100年かけて培ってきた技術と信頼に甘んじることなく、ここからまた100年先を見据えた、末宗組の挑戦が始まる。



会社を継承するという事は、末宗組という会社の歴史、理念、責任……、それらすべてを次代に繋ぐということ。左から寿市、為十、庄太郎、秀雄、そして庄太郎の長男・信市。

建設業者としての自覚と責任が見て取れる。次の代へと繋ぐ下地もできた。13年には中央の中堅ゼネコンで働いていた庄太郎の長男・信市が帰郷し、末宗組に入社。他所での2年半の実務経験を生かし、大きな公共工事の入札等で力を発揮し始めている。コンピューターの発達とともに、平成15年4月から国土交通省（地方整備局等）が発注する建設工事はすべて電子入札に変わり、地方自治体も20年前後には電子入札の導入へと切り替わるなど、入札の形も変わってきた。こうなるともう信市世代の出番である。

これまで末宗組は、祖父から父、そして庄太郎たち兄弟4人と、常に強い血縁関係によって成長し支えられてきた。とくに庄太郎の代になってからは、4人がそれぞれの個性と持ち味を生かし、絶妙なバランスで会社を盛り立ててきた。

兄を補佐しつつ、社員たちの厳しくも良き上司、先輩として現場主義を貫く為十。マネジメントの要として経営を支える寿市。宇佐市議から県議となり、行政や異業種との橋渡し役となる秀雄。そして弟たちの意見を聞きつつ、末宗組の長として決断をする庄太郎。この4人の結束なくして、いまの末宗組はあり得ない。

しかしこの業界に安泰はない。次の代に